

# 2022年度 事業報告（案）

特定非営利活動法人 大阪府民環境会議

自 2022年4月1日至 2023年3月31日

## <目 次>

### I. 事業の概要

### II. 事業の実施状況

1. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造活動への府民の啓発を目的とした教育・広報に関する事業
2. 地球温暖化防止や地域の環境保全・創造に向けての情報の収集・発信、調査研究に関する事業  
    ホームページによる情報発信とネットワークの強化
3. 地域に根ざした持続可能な社会・循環型まちづくり及び環境教育のためのネットワークづくり、情報基盤の整備に関する事業
  - 1-1 水田など里地里山農空間と生物多様性の保全（水田マコモダケ耕作と拡大）
  - 1-2 田んぼ復活プロジェクト（マコモダケ普及事業）
  - 1-3 天神祭ごみゼロ大作戦と給水スポット普及（資源循環社会へ市民参加促進事業）
  - 1-4 再生バイオマス事業研究（里山倶楽部）
4. ネットワーク  
    OPEN が加盟する団体

### III. 総会の開催状況

### IV. 理事会の開催状況

### V. 会員状況

## I. 事業の概要

### 2022 年度の事業概要

事業の特色は、地球温暖化防止・地球環境の保全に向けた実践行動として3つの事業を多様な主体と実践し、事業化に向け検討を継続し、市民参加を促すことでした。

しかし、コロナウィルス変異し収束の見通しが不明な中で、とくに大阪では全国一の死者数が続いているなか、徐々に活動を再開していきました。

3年余社会経済活動が停滞していましたが、待ったなしの気候変動による環境悪化はさらに加速しています。ネットワーク団体が取り組んできた1年間の実践は下記のとおりです。

1つは、資源循環型活動と協働による活動です。

天神祭が3年続きで船渡御、奉納花火は中止となり、露天営業も中止となりました。「天神祭ごみゼロ大作戦実行委員会」では、昨年に続きブルーオーシャンのためのクリーンリバー大作戦として、河川敷公園と川中のごみ拾いイベントを実施しました。Refill 大阪として、ペットボトル削減として、昨年に続き Osaka Metro 株式会社の協力により地下鉄天満橋構内で冷却給水機の実演とアンケートを実施しました。NPO 水政策研究所と共同行動をし、地産地消の水の大切さを知るセミナーも11月に開催しました。また、大阪府マイボトルパートナーズの一員として、各自治体、水道局、企業、NPO 団体との情報交換をしました。

2つには、自然環境・生物多様性の保護保全活動です。生物多様性の「宝庫」とも評価される水田・里山の農空間は全国的にも消失がいちじるしく、その保護保全は喫緊の課題となっています。このため、休耕などの水田で在来種マコモ（イネ科）を耕作・株分けして面積を拡げるとともに、その産物の肥茎マコモダケや葉を普及頒布し、水田・里山農空間を保全する活動を本年度も継続、茨木市泉原の母田などでそれらを実施しました。また、取り組みを普及・拡充するため、葉っぱを利用したマコモ茶やせっけん、オイルなどの産物を頒布するなど普及に取り組みました。

当会の特色である多様なジャンルの団体のネットワークを活かし、各団体間が互いに情報交換し、多くの市民参加を促し、環境を良くする実践のひろばとして引き続き、行政や事業者、市民協働を進めました。

## II 事業の実施状況

### 1. マコモダケ水田耕作など里山農空間・生物多様性保全事業

田植え、株分け、収穫3回、水田整備、試食会の開催、エコ縁日での展示

予 算 100,000 円

執行額 97,855 円

残 額 2,145 円

事業担当者 木内、岡

### 2. マコモダケ製品開発への支援事業

「田んぼ復活プロジェクト」の呼びかけを行い、賛同者による寄付の返礼としてマコモ商品（お茶・マコモ石けん、マコモスキンケア商品）を送り普及につとめた。

エコ縁日（11/12）、関大前 NAZ マルシェ（11/15）、リフィル大阪セミナー（11/19）

マコモダケの認知度を高めるべくホームページ情報発信（Facebook）を定期的に更新した。

予 算 0円

寄付・販売あっせん手数料 37,220円

事業協力 渡辺

## 5. 天神祭ごみゼロ大作戦 2022 と給水スポット普及活動

### 【事業の目的】

地球温暖化を防止するための個人の活動として、資源循環の体験の場をひろめていく。一人一人が使い捨てをやめ限りある資源を次の世代に引き継ぎ、大量消費をやめること。日常に発生するごみ問題から環境を良くする活動を通じてコミュニケーション力が深まり、資源を大切にすることが人の命も大切にす気持ちに繋がる。地域資源として公共水道の大切さの再認識と積極的活用を促す。給水スポットは、水政策研究所と共同で実施した。

事業担当者 西村、岡見、松井、小林、山口

### 【実施内容】

#### ①ブルーオーシャンのためのクリーンリバー大作戦 2022

日 時 7月24、25日

開催場所 大川沿い公園一帯、Osaka Metro 天満橋駅構内

花火会場の河川敷でのごみ拾いと船渡御が行われる大川をサップに乗りごみ掬いを1日型で実施した。大阪メトロの協力により最寄り駅「天満橋」構内で、水道局の給水機「水色スイッチ」を実践。

使用機種は大阪市水道局の移動式「水色スイッチ」を使用。

成果 ボランティア参加者 のべ137人（実数80人）が集まり

7月25日大川ごみ拾い・掬いと7月24、25日 給水スポットを実施

水辺のごみ 43.8kg 川中のごみ 23.3kg

給水スポット 2日間で112人利用。アンケート回答者は254人

2025年大阪・関西万博で廃棄物ゼロ、リユース、再資源化などを市民ボランティアにより達成していくことにつなげ、あらゆる街で資源循環が基本とする経済へ流れを変えていくことを目的としている。

#### ②Refill大阪セミナー

日 時 11月19日

開催場所 OMM 2階会議室

テーマ マイボトルとSDGs～水道水の良さを知ろう～セミナー

講師 水政策研究所 今岡清二さん

骨子:地球上の水で人が利用できる淡水は全体のなんと0.01%しかない貴重なものであること。健全な水循環には、森林の果たす役割「水源涵養機能」の維持として森林保全はとても大切であること。大阪はじめ近畿圏は滋賀県のびわ湖が重要な水源であり、琵琶湖に流れ込む山系からの多くの河川が大きな役割を果たしていること。大阪市の水道水が出来るまでの流れを浄水場の仕組み、高度浄水処理などの工程。そして水道水を蛇口までは、2つの方式があり、高層ビル・マンションが立ち並ぶ街では、直結増圧式給水で受水槽が不要の方式、受水槽方式（緊急時対応可能な施設など）で提供していること。水道法による水質検査は52項目もあり、全国どこでも安心安全の水道水が飲めるようになっている。

先進事例報告 アジェンダ 21 すいた資源部会水川さんから、吹田市内の公共の  
所での給水スポットのマップとマイ容器でお得なお店情報など、各店舗への要請  
行動をしているなど事例があった。

Refill J a p a nの活動と街で無料給水場所を見つけて、知らせてもらうなど  
の説明、環境クイズなどをした。マコモダケの展示、マコモ茶のふるまい。

参加者数 43 人

共催 大阪府民環境会議、水政策研究所、ごみゼロネット大阪、Rびんプロジェクト

#### 【事業実施の成果】

水道で働く大阪市水道労働組合の NPO 水政策研究所と連携で、公共水道の大切さとペ  
ットボトルの環境負荷と経済コストを減らすために、地元の水源を利用することの普  
及活動ができた。

#### 【事業費】

予 算 100,000 円

執行額 45,960 円（チラシ印刷費、発送費。会場費 62,700 円は水政策研究所が負担）

残 額 54,040 円

## 6. 木質バイオマスエネルギー活用事業

スターリングエンジン、ロケットエンジンの実証実験を行ったが、まだ開発途上

予算額 20,000 円

執行額 0 円

残 高 20,000 円

OPENが加盟する団体（加盟順）

### 1. なにわエコ会議

大阪市が設置した市民・環境 NGO/NPO・学識経験者・行政が参加する協議会に NPO として  
参加

### 2. 自然エネルギー市民の会

自然エネルギー普及を進めるための活動を目的に 2004 年に設立。

### 3. 温暖化防止ネットワーク関西

関西における地球温暖化防止活動のネットワーク。世話人として参画。

### 4. 生物多様性かんさい

COP10 を機に関西圏に拠点のある市民団体でつくったネットワーク

### 5. 大阪ごみ減量推進会議

大阪府民環境会議の 3 R 分野のネットワーク及び活動の継続・強化を目指し参画。

2025 大阪・関西万博におけるごみゼロの実践に向け、博覧協会事務局と折衝を進めている。

### 6. 大阪びんリユース推進協議会

知り合おうリユースびんの輪「土にフォーカスした会社の挑戦と秦プロジェクト」の  
開催（8月23日）

### 7. 社会福祉法人大阪ボランティア協会

### 8. NPO 法人 エコネット近畿

## 9. 関西環境教育学会

マコモダケ普及活動と吹田市自然体験交流センターで写真パネル展示とマコモ茶試飲会等の実践を含め、次世代の環境教育の普及に努める役割

### III. 総会の開催状況

#### 第19回通常総会の開催

6月11日

八尾廃校 SATODUKURI BASE（八尾市水越2-117）

参加者：16人（内委任状 8人）

### IV. 理事会の開催状況

第1回 4月8日 ほぼエコ café&Gallery NAZ（ナーズ）

第2回 6月1日 八尾廃校 SATODUKURI BASE

### V. 会員状況

正会員	団体	15
正会員	個人	7
賛助会員	団体	0
賛助会員	個人	2

役名	氏名	所属
理事長	木内 功	個人会員・関西環境教育学会
副理事長	大塚 憲昭	特定非営利活動法人 里山倶楽部
専務理事	山口百合子	特定非営利活動法人 グリーンコンシューマー大阪ネットワーク
理事	松本 一美	特定非営利活動法人 One World for Children
理事	山崎 博文	Rびんプロジェクト
理事	岡 秀郎	公益社団法人大阪自然環境保全協会
理事	西村 優子	大阪びんリユース推進協議会
理事	岡見 厚志	Worldseed
理事	小林 千恵	特定非営利活動法人 ごみゼロネット大阪
監事	松井 一郎	個人会員